

<特集「他動性」>

アカン語の他動性 Transitivity in Akan

古閑 恭子¹, フランシス・アジェマン・プレンペ²
Kyoko Koga, Francis Agyeman Prempeh

¹高知大学人文社会科学部
Faculty of Humanities and Social Sciences, Kochi University
²ガーナ大学言語学科
Department of Linguistics, University of Ghana

要旨: 本稿はアカン語の他動性に関する資料を提示する。データ収集には『語研論集』第25号の英語版調査票(6.「他動性」)を使用した。

Abstract: This article provides Akan data collected by using the questionnaire ‘Transitivity’ designed by Kazama (2020) in the *Journal of the Institute of Language Research* vol. 25.

DOI: <https://doi.org/10.15026/0002001487>

キーワード: アカン語, 情報構造, 名詞述語文

Keywords: Akan, transitivity

1. はじめに

アカン語はガーナ共和国に話されるニジェール・コンゴ語族クワ語派に属する言語である。アサンテ, アクアペム, ファンテ, アノマボ・ファンテ, アブラ・ファンテ, アチェム, アゴナ, アセン, ダンチラ, クウ, ゴムア, アハフォ各方言に下位分類される(Eberhard, Simons, and Fennig 2020)。ここで対象とするのはアサンテ方言である。データ収集は、『語研論集』第25号の英語版調査票を使用し(6.「他動性」), 第2著者アジェマン(男性・26歳, アシャンティ州クマン出身)が, 各例文に相当する, あるいは類似, 関連するアカン語文を口述し, 第1著者古閑が記録する形で行った。必要に応じて, 具体的用法や使用場面など, アジェマンによる説明も記載した。

2. 資料

アカン語の基本語順はSVOで, 代名詞以外は格標識がない。また, 名詞と動詞の文法関係を示すマーカーや一致もなく, 名詞と動詞の文法関係はもっぱら語順で示される。動詞の多くは同形で自動詞にも他動詞にも使え, その場合自動詞用法の主語が他動詞用法の目的語に対応する。



本稿の著作権は著者が保持し, クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deedja>

(1) o=kum-m wánsana=nó.
3SG.SUB=kill-PST housefly=DEF
彼はそのハエを殺した。

(2) ɔ=seé-e adá!ká=nó.
3SG.SUB=destroy-PST box=DEF
彼はその箱を壊した。

直接影響で変化を伴う場合、(1), (2)のように典型的に他動詞構文 SVO で表される。

(3) ɔ=kã-ã nkwán=nó hye.
3SG.SUB=touch-PST soup=DEF hot
彼はそのスープを温めた。

一方、「温める」は動詞 kã に、その結果を表す形容詞 hye を添えて表す。

(4) ??o=kum-m wán!sána=nó nso ɔ=a-n-wú.
3SG.SUB=kill-PST fly=DEF CONJ 3SG.SUB=PRF-NEG-die
彼はそのハエを殺したが、死ななかった。

kum は状態変化の結果「死ぬ」を含意する。したがって、死んだはずなのに死んでいなかった、のような特殊な場合を除き、(4)の表現は不可能である。

(5) ɔ=bɔ-ɔ bólo=no.
3SG.SUB=kick-PST ball=DEF
彼はそのボールを蹴った。

状態変化を伴わない直接影響も、基本的に(5)のように他動詞構文で表す。

(6) a. ɔ=bɔ-ɔ ne=nán.
3SG.SUB=kick-PST 3SG.POSS=leg
彼女は彼の足を蹴った。

b. ɔ=bɔ-ɔ=no wo ne=nán mú.
3SG.SUB=kick-PST=3SG.OBJ be.in 3SG.POSS=leg in

「彼女は彼の足を蹴った」は、(6a)のように身体部位を目的語として表すか、(6b)のように人を目的語とし、身体部位を切り離して表現する。なお、古閑 (2024: 7)で「彼は(別の)彼の肩をたたいた」、「彼は(別の)彼の腕をつかんだ」は、人を直接項として身体部位を切り離して表現し、身体部位の所有形を項とすると、「自分の肩をたたいた」、「自分の腕をつかんだ」になったが、ここで(6a)のようにも言えるのは、「肩をたたく」、「腕をつかむ」と異なり、自分の足を蹴ることは不可能であるためと考えられる。

- (7) a. ɔ=pem-m=no.
3SG.SUB=push-PST=3SG.OBJ
- b. ɔ=tó hyɛ-ɛ ne=só.
3SG.SUB=reach.PST attack-PST 3SG.POSS=top
- c. ɔ=de ne=hó twe-e=no.
3SG.SUB=take.STA 3SG.POSS=body nudge-PST=3SG.OBJ
彼はその人にぶつかった (故意に).

- (8) ɔ=kã-ã=no.
3SG.SUB=touch-PST=3SG.OBJ
彼はその人とぶつかった (うっかり).

「故意にぶつかった」(7), 「うっかりぶつかった」(8)は動詞によって区別されている.

- (9) mi=hũ nkorófóó beberee wo hó.
1SG.SUB=see.HAB people many be.in there
あそこに人が数人見える.

- (10) a. me=hwe-ɛ efíé=nó.
1SG.SUB=look-PST house=DEF
私はその家を見た.
- b. mi=hũ-ũ efíé=nó.
1SG.SUB=see-PST house=DEF
私はその家を見た (その家が見えた).

- (11) me=te-e sé obí teá-a mu.
1SG.SUB=hear-PST COMP someone scream-PST in
誰かが叫んだのが聞こえた.

- (12) a. ɔ=te-e saá nnyegyéé=nó.
3SG.SUB=hear-PST such sound=DEF
彼はその音を聞いた (その音が聞こえた).
- b. o=tié-e saá nnyegyéé=nó.
3SG.SUB=listen-PST such sound=DEF
彼はその音を聞いた.

アカン語には, 見る: 見える(hwe : hũ), 聞く: 聞こえる(tie : te)に相当する知覚動詞の対立がある. いずれも他動詞構文と同じ SVO である. (11)は複文で表す.

- (13) o=hunu-u safoá=nó áa ɔ=yerá-a=nó nó.
3SG.SUB=find-PST key=DEF REL 3SG.SUB=lose-PST=INAN.OBJ FIN
彼は (なくした) カギを見つけた.

- (14) ɔ=bobó-ɔ akonwá.
 3SG.SUB=beat-PST chair
 彼は椅子を作った.

「見つける」(13), 「作る」(14)も他動詞構文と同じ SVO で表す.

- (15) ɔ=ɔ-twɛ̀n hyén=nó.
 3SG.SUB=PROG-wait vehicle=DEF
 彼はバスを待っている.

- (16) ná me=e-twɛ̀n sé ɔ=bé-bá.
 then 1SG.SUB=PROG-wait COMP 3SG.SUB=FUT-come
 私は彼が来るのを待っていた.

- (17) ɔ=ɔ-hwehwé ne=kótokúó=nó.
 3SG.SUB=PROG-search 3SG.POSS=purse=DEF
 彼は財布を探している.

「待つ」(15), 「探す」(17)も他動詞構文と同じ SVO で表す. (16)は複文で表す.

- (18) ɔ=nim nnéémá pii.
 3SG.SUB=know.STA things many
 彼はいろんなことをよく知っている.

- (19) mi=nim saá ó!ní kóró=nó.
 1SG.SUB=know.STA such person one=DEF
 私はあの人を知っている.

- (20) a. ɔ=te Twíi.
 3SG.SUB=hear.STA Twi
 b. ɔ=te Twíi asé.
 3SG.SUB=hear.STA Twi under
 彼はアカン語ができる.

アカン語動詞には状態形がある. 状態形は, 現前の状態を表し, 低声調によって表される. 状態形をとることのできる動詞は, da 「寝る」, gyina 「止まる, 立つ」, fua 「(手に) 持つ」, hye 「着る」, fura 「身に纏う」, fri 「貸す, 借りる」, tare 「引っ付く」, si 「立つ」など保持や姿勢変化を表す動詞に限られる. また, nim 「知っている」, nyem 「妊娠している」, te 「…に住んでいる」, wo 「ある/持っている」, se 「似ている」, te 「(言葉が) わかる」など, 原則として状態形しか取れない動詞(語彙的状态動詞)がある. (19), (20)でも nim 「知っている」, te (ase) 「(言葉が) できる」が状態形(低声調)を取っている.

- (21) wó=kaé dee me=ká-ǎ nnó!rá=nó?
 2SG.SUB=remember.HAB that.which 1SG.SUB=say-PST yesterday=DEF
 あなたはきのう私が言ったことを覚えていますか？

- (22) me=wére a-fi ne=fón nóma=nó.
 1SG.POSS=mind PRF-come.out 3SG.POSS=phone number=DEF
 私は彼の電話番号を忘れてしまった。

一方、「覚えている」は(21)のように習慣形（2音節動詞は低高）で表す。また「忘れた」は「心が出ていった」と表現する。

- (23) maamé=nó do-ɔ ne=mmá=nó dodo.
 mother=DEF love-PST 3SG.POSS=children=DEF much
 母は子供たちを深く愛していた。

- (24) me=pe kwadú.
 1SG.SUB=like.STA banana
 私はバナナが好きだ。

- (25) [mi=kyini/ mi=dwa/ me=tan] saá oni kóró=nó.
 1SG.SUB=dislike.STA 1SG.SUB=detest.STA 1SG.SUB=hate.STA such person one=DEF
 私はあの人を嫌いだ。

do「愛する」(23), pe「好きだ」(24), kyini, dwa, tan「嫌いだ」(25)といった感情動詞は、基本的に状態形しか取らない。(23)は（今はそうでないが）以前は愛していたという意味で、過去形となっている。

- (26) a. me=pe mpaboá.
 1SG.SUB=want.STA footwear
 b. mi=híá mpaboá.
 1SG.SUB=need.HAB footwear
 私は靴が欲しい。

- (27) o=híá síká seeséi.
 3SG.SUB=need.HAB money now
 今、彼にはお金が要る。

「欲しい」は「好きだ」と同じ動詞 pe を使い、ここでも状態形を取る(26a)。「要る、必要だ」は習慣形を取る(26b), (27)。

- (28) mé=maamé bó á-fu sé mí=lnúá twá-a ntró.
 1SG.POSS=mother chest PRF-swell COMP 1SG.POSS=brother cut-PST lie
 私の母は私の弟がうそをついたのに怒っている。

- (29) o=suró nkrámán.
 3SG.SUB=be.afraid.HAB dogs
 彼は犬が怖い。

「怒っている」は「胸が膨らんだ」と表現する(28). suro 「怖がる」は習慣形を取る.

- (30) ɔ=se né=!gyá.
 3SG.SUB=resemble.STA 3SG.POSS=father
 彼は父親に似ている。

- (31) nkyéné wɔ po mú.
 salt exist.STA sea in
 海水は塩分を含んでいる (海には塩がある)。

se 「似ている」, wɔ 「存在する」は語彙的状态動詞である。つまり, 状態形しか取らない。

- (32) mí=!núá ye ɔyaresá!ní.
 1SG.POSS=brother COP doctor
 私の弟は医者だ。

- (33) a. mí=!núá be-yé-ε ɔyaresá!ní.
 1SG.POSS=brother VENT-to.be-PST doctor
 私の弟は医者になった。

コピュラ文(32)に対して, 「…になった」はコピュラの来辞形 ventive (来て…する) で表す。

- (34) a. o=tumí twí káa.
 3SG.SUB=be.able.HAB drive.HAB car
 b. o=bé-!túmí á-twi káa.
 3SG.SUB=FUT-be.able CONS-drive car
 彼は車の運転ができる。

- (35) a. o=tumí dwaré nsúó.
 3SG.SUB=be.able.HAB swim water
 b. o=bé-!túmí á-dwaré nsúó.
 3SG.SUB=FUT-be.able CONS-swim water
 彼は泳げる。

「…できる」は可能動詞 tumi を用いた動詞連続構文で表す。習慣形(34a), (35a)と未来形(34b), (35b)の違いは実現可能性の度合いの違いで, 習慣形が実現可能性が高い。

- (36) a. [ɔ=te/ o=nim] ká!sá.
 3SG.SUB=hear.STA 3SG.SUB=know.STA speech
 b. ne=anó ká!sá yε dε.
 3SG.POSS=mouth speech COP sweet
 彼は話をするのが上手だ.
- (37) a. ó=n-tumí n-tú mmiriká ten!té.
 3SG.SUB=NEG-be.able.FUT NEG-fly.FUT run fast
 b. ni=mmírikatúó ñ!nyé.
 3SG.POSS=running NEG-be.good
 彼は走るのが苦手だ.

「上手だ」, 「下手だ」に相当する動詞や形容詞はなく, 動詞 *nim* 「知っている, 分かる」(36a), *tumi* 「できる」(37a)を使って表す. あるいは, 「彼の口の話は良い」(36b), 「彼の走りは良くない」(37b)のように表現する.

- (38) o=duru-u sukúu hó/ mú.
 3SG.SUB=arrive-PST school there in
 彼は学校に着いた.
- (39) o=twá-a kwán mú.
 3SG.SUB=cross-PST road in
 彼は道を渡った/横切った.
- (40) ɔ=fa-a kwán weí só.
 3SG.SUB=take-PST road this on
 彼はこの道を通った.

duru 「着く」(38), *twá* 「渡る」(39), *fa* 「通る」(40), いずれも, 場所名詞に後置詞が後続する.

- (41) okóm de=no.
 hunger take.STA=3SG.OBJ
 彼はお腹を空かしている.
- (42) sukóm de=no.
 thirst take.STA=3SG.OBJ
 彼は喉が渴いている.

「お腹がすいた」, 「喉が渴いた」ともに, *okóm* 「飢え」, *sukóm* 「乾き」を主語とし, 感覚経験者を目的語とした構文となる.

- (43) awó de=me.
coldness take.STA=1SG.OBJ
私は寒い.
- (44) awó wɔ mú nné.
coldness exist.STA in today
今日は寒い.

「私は寒い」も、awó「寒さ」を主語とし、感覚経験者を目的語とする構文を取る。一方、「(今日は)寒い」は、「(今日は)寒さが中にある」のように表現する。

- (45) me=boá-a=nó.
1SG.SUB=help-PST=3SG.OBJ
私は彼を手伝った／助けた.
- (46) a. me=boá ma-a=nó soá-ayé.
1SG.SUB=help.PST give-PST=3SG.OBJ carry.on.head-PST
私は彼がそれを頭に載せるのを手伝った.
- b. me=boá ma-a ɔ=soá-a adéé.
1SG.SUB=help.PST give-PAT 3SG.SUB=carry.on.head-PST thing
私は彼がそれを頭に載せるのを手伝った.
- c. me=boá=nó ma-a=nó soá adéé.
1SG.SUB=help.PST=3SG.OBJ give-PST=3SG.OBJ carry.on.head.HAB thing
私は彼を手伝って頭に載せさせた.

「私は彼を手伝った」は他動詞構文である。「…するのを手伝う」は使役動詞 ma を使った動詞連続で表す。(46a, b)は「彼が(自分で)頭に載せるのを手伝った」、(46.c)は「(一人でできないので)彼を手伝って頭に載せさせた」。

- (47) mi=bisá-a=no ne=bótayé.
1SG.SUB=ask-PST=3SG.OBJ 3SG.POSS=reason
私はその理由を彼に聞いた.
- (48) me=ká kyeré-ε=no sé Kofi ba-a há.
1SG.SUB=speak.PST show-PST=3SG.OBJ COMP Kofi come-PST here
私はコフィがここに来たことを彼に話した.

(47), (48)とも、「彼」に対応する目的接語が動詞に後続する。

- (49) mi=hyiá-a=no.
1SG.SUB=meet-PST=3SG.OBJ
私は彼と会った.

「会う」も(49)のように他動詞構文で表される.

		略号	
á	高声調	HAB	習慣
a	低声調 (表記なし. ただし単独で音節末子音に実現する場合 ñ)	INAN	無生物
		NEG	否定
!á	ダウンステップ高声調	OBJ	目的接語
1	1人称	POSS	所有接語
2	2人称	PRF	完了
3	3人称	PROG	進行
COMP	補文標識	PST	過去
CONJ	接続詞	REL	関係詞
CONS	順統	SG	単数
COP	コピュラ	STA	状態
DEF	定	SUB	主語接語
FIN	補文末標識	VENT	来辞
FUT	未来		

参考文献

- Amfo, A. A. 2010. Lexical signaling of information structure in Akan. *Linguistics* 48-1. 195–225.
- Eberhard, D.M., G.F. Simons, and C.D. Fennig eds. (2020) *Ethnologue: Languages of Africa and Europe, Twenty-third edition*, Dallas, Texas: SIL International.
- 古閑恭子, ダニエル・アーチャンボン. 2024. 「アカン語のヴォイスとその周辺」『語学研究所論集』28 (2023年度号), Article 37.

執筆者連絡先 : koga@kochi-u.ac.jp

原稿受理 : 2025年11月16日

刊行年月日 : 2026年3月31日